

生活支援体制整備部会におけるこれまでの議論（要旨）

○令和元年 9 月 24 日

協議事項 「生活支援（訪問）活動の体制整備」について

- ・地域の助け合い活動（訪問）に対する補助の仕組みについて、地域活動団体に聞き取り調査を行った結果、補助対象者へ支援を行った件数に応じて補助額が変わる仕組みは地域の実態にそぐわないのではないか。
- ・まず、第 2 層協議体の中で足りないものを補い課題解決へ取り組むには具体的に何をどうしていくか協議し詰めることが先決であり、その課題に対して第 1 層協議体として何ができるかを考えるべきである。
- ・4 つの地域課題（人材確保・活動拠点場所確保・移動手段の確保・財源の確保）を市が分析し、ここで協議し取り組むべきではないか。

○令和元年 12 月 13 日

協議事項 「地域課題の分析結果」について

①人材確保

当市は、高齢者のみ夫婦・高齢者単身の世帯数が県・全国平均を上回ってる。「緩和した基準による担い手養成研修」の修了者のフォローアップや市と社会福祉協議会の連携が必要ではないか。

②活動拠点・活動場所の確保

サロン等は少しずつ増加してはいるが、徒歩で気軽に通える場づくりが今後必要なためハード面（バリアフリー化等）、ソフト面（通信設備等）の充足が必要である。

「空き家活用リフォーム助成制度」の利用など他部署との連携や公共施設等の遊休スペースの利用のほか、県や民間も含めた助成制度の活用を検討すべきではないか。

③移動手段の確保

「地域に暮らし続けるために介護保険以外に必要なサービス」として外出の際の移動支援サービスの希望は多い。介護保険事業を展開する社会福祉法人との連携等官民一体の取り組みが必要ではないか。

④財源確保

安定した地域活動の継続において、財源はなくてはならないものである。

特に人材確保については、今後有償ボランティア活動等も検討するにあたり地域支援事業の枠組みの中で活動者へどのような支援ができるか第 1 層協議体で検討が必要である

分析結果を踏まえ 4 つの課題について順番に改善策を検討していくこととし、各委員に「人材確保」や「広報」「活動場所」「移動支援」などについて、自身が所属している団体が今までに取り組んできたことや今後取り組もうとしているこ

などを「地域課題の分析から見えてきた課題に対する検討シート」に記入し次回以降、人材確保のあり方のひとつとして「ボランティアのあり方について」協議していくこととなった。

○令和2年2月25日

協議事項 「地域課題の分析結果から見えてきた課題について」

- ①「地域課題の分析から見えてきた課題に対する検討シート（以下検討シートとする）」より人材確保に関するの主な意見、課題
 - ・会員確保のためチラシなどの広報を積極的に行う。
 - ・入会にあたっての詳しい説明を行う。
 - ・仲間づくりという視点で募集する。
 - ・活動内容に魅力がなければ継続は難しい。
 - ・地域の情報を共有し協力しあえる地域づくりが大切である。
 - ・活動者の確保のため、有償ボランティア活動の構築が必要である。

- ②協議内容 人材確保の課題解決策として「ボランティアのあり方について」
 - ・活動することでポイントが付与されそのポイントを何かの形で利用できることが活動のきっかけとなる。
 - ・ポイントの方が社会貢献したいという人にはあっているような気がする。
 - ・ポイントを貯めるという意欲で継続にもつながる。
 - ・活動啓発に関しては、紙媒体だけではなく SNS などを利用も検討する必要がある。
 - ・時間預託としてのポイント制度や大阪府で実施されている「アスマイル（スマートホンのアプリ利用）」など様々なポイント制度が実施されている。

- ③結論
 - ・今後ボランティアポイント制度を含め具体的に人材確保について検討していく。
 - ・市は、次回ボランティアポイント制度についての他市の事例を提案をし、川西市としてどうしていくのかどういったことを検討していかないといけないのかについて協議していく。